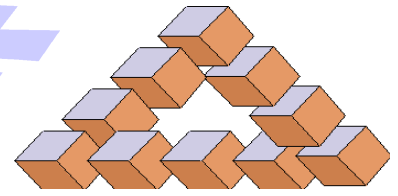


会長の独り言



No. 2 H30.4.18

横浜市小学校算数教育研究会長 小林 広昭

研究主題 「数学的に考える資質・能力を育成する算数科学習」
～数学的な見方・考え方が成長する学び～

今年度の研究活動のスタート！

新年度がスタートして3週間も経っていない今、先生方は、まだまだ年度始めの事務や子どもたちとの授業の準備に追われているのではないのでしょうか。「仕事に追われるのではなく、仕事を追いかけるのです。」と先輩に言われたこともあります。ぜひ、仕事を楽しみながら、仕事を追い回してほしいと考えます。

さて、25日は、今年度最初の市算数研究会が開催されます。第二部の講演会では、今回の学習指導要領の作成に携わった、本研究会前会長の齊藤一弥先生からお話を伺います。今回の学習指導要領は、戦後にできた学習指導要領から70年目の大改訂になります。「資質・能力の育成」「数学的な見方・考え方」「数学的な活動」「数学的に考える資質・能力」「主体的・対話的で深い学び」・・・など難しい用語が出てきています。これらのことについては、昨年度も齊藤先生を始め、大学の先生方からも多くのお話をいただくとともに、本研究会でもその具体について研究を進めてきていますが、その実現は難しい面があります。中には、学習指導要領にかかわる本を読んだり講演を聴いたりして、ある程度は理解したと思っている方もいるかもしれませんが、しかし、今回の学習指導要領の具現化については、他都市の多くの研究会でも取り組んでいます、そう簡単にはいかないというのが、現状のようです。

私は、「わかった、できた」と自分で思っているほど、危ういものはないと思います。人の学びは、山登りのようなものです。頂をめざして登っていくと、そこに近づくにつれ、次の頂が見えてきます。自分の登ってきた道を振り返って、がんばったなど思うことはあっても、これで終わりと考えことはありません。学べば学ぶほど、自分の至らないことが見えてきて、さらに次の頂に向かって登り続けていく。この繰り返しが真の学びと考えます。そして、教師がその学びを実現していこうとしなければ、子どもたちも真の学び手にはなっていないと思います。

今年度も市算研、オール横浜で学習指導要領の具現化について研究を進めていきます。その第一歩として、齊藤先生にお話を伺うことで、指導要領の理解をさらに進めるとともに、次の実践への方向性を見いだせればと考えます。研究をスタートするに当たって、課題を共有し、方向性の共通理解を図り、今年度の合言葉「協働（collaboration）」のためにも、今回の講演の意義は大きいと思います。ぜひとも15時20分には、磯子公会堂に多くの方のご参集を期待します。

さらに、その後の懇親会でも多くの仲間と話すことができれば幸いです。お時間の許す方は、ぜひとも懇親会もご参会ください。

<この「会長の独り言」は、印刷して配付していただいてもかまいません。>